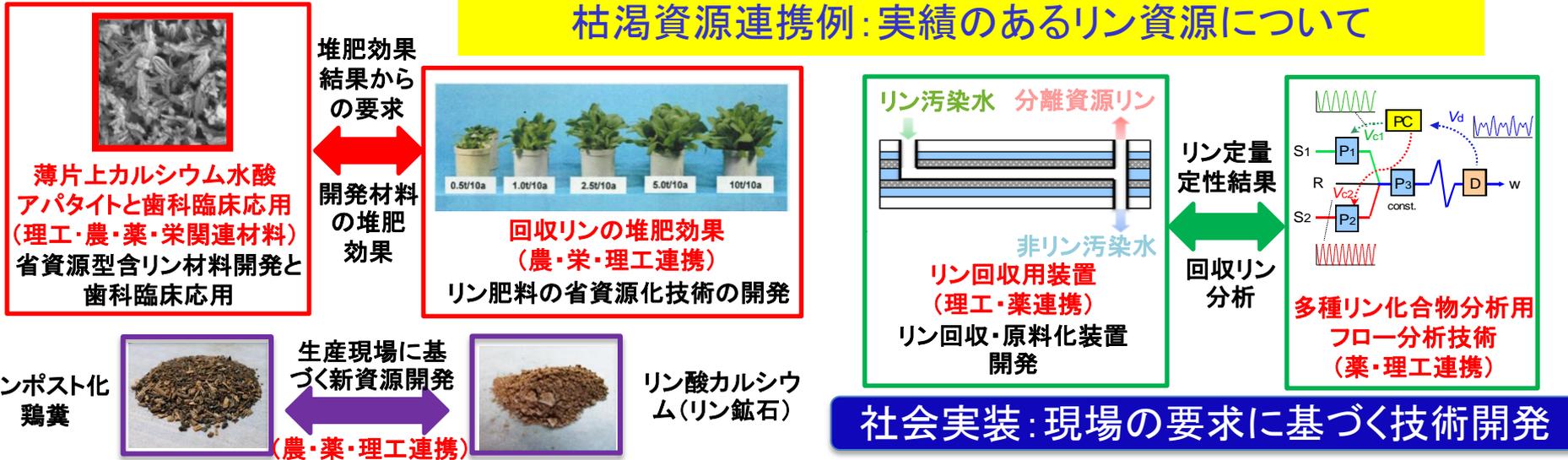


“人類の恒久的繁栄に向けた対枯渇資源対応技術の開発”の強みと準備状況

メンバー構成: 杉山/外輪/森賀/小笠原他@化学(リン/石油資源)、中村他@生物(バイオマス)、古部他@光応用(石油/希土類資源)、田中他@薬学/竹谷他@栄養(リン資源)

枯渇資源連携例:実績のあるリン資源について



強み	最近の準備状況(例)
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他に先駆けた枯渇資源対応による最高レベルの研究水準(基盤A・B、各2件など) ✓ メタンに対するメタンハイドレート、リン資源に対する鶏糞、希土類資源に対する使用済み蛍光灯等、徳島に特有の枯渇資源活用し、大学全体で推進可なため、研究組織の改革に寄与する ✓ 分野を問わない資源の高付加価値化、省資源技術の開発など基礎から応用まで、融合領域の創出可 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 対石油資源:CRESTへの申請:“化成品合成へのメタン接触部分酸化の革新的展開” ✓ “リンの事典”(朝倉書店)の編集や執筆、“Phosphorus Recovery and Recycling Engineering - European and Asian Perspective -”(Springer)の執筆などによる国際的産学官連携への展開 ✓ 使用済み蛍光灯から、ユーロピウム、イットリウムなどの希土類の効率的回収を産学連携で実施、学術論文公表